

陸奥湾は青森県のど真ん中に位置し、八甲田山系の豊かな広葉樹の森の恵みを受けて、山・川・海の豊かな循環型の環境が成立しています。この八甲田のブナ林等の広葉樹の森が陸奥湾の豊かな漁場を作ったと言っても過言ではありません。

陸奥湾周辺の森と海との関係を理解し、市民皆で陸奥湾を守っていくことの必要性をこの植樹活動を通して知っていく意味で、この植樹活動は大切だと思っています。

現在、陸奥湾の抱えている問題や課題がいくつかあります。

1. 私達の豊かなライフスタイルを求めた結果、川を伝わって陸奥湾は大変汚れが増えている（合成洗剤等の生活排水が多い）
2. 農業用排水が流れてきて、農薬等の化学薬品が蓄積されている。
3. プラスチックごみが増え続けている。
4. 温暖化問題で、青森県が30℃を超える夏場が多くなり、海水温の上昇を、陸奥湾の自然循環システムだけでは、補えなくなっている。津軽海峡から入る海水を自然循環するシステムが難しくなっている。

私達の人間活動のツケ（汚染度）が、延々と続いていったらどうなるのか危惧しています。私達の植林活動の目標は、この植樹活動を通して、1人でも多くの県民・市民が八甲田山を中心とした豊かな自然循環型のシステムに気づき、豊かな漁場を大切に守っていこうという意識が広がることです。これは、広い意味で地球環境を守る意識、活動にもつながっていくものと思っています。

今は昔と違って、環境問題は一部地域の問題ではなく、多くの人間が環境問題を引き起こしているという意識に立って、この地球という環境を守っていこうという行動になってもらいたいと願っています。そのシンボルとして『陸奥湾の周辺の森に木を植えよう』という活動が一番わかりやすく、その意識が広がるのが目標です。私が市民全体の陸奥湾に対しての保全意識が高まるよう、視聴者に一言いいたいです。それは、昔の人達は、自然と向き合った生活をしてきました。三内丸山の縄文人は、ブナ林の中から生活の糧を得て、豊かな山と水が流れ、海の幸が捕れる所に、1000年以上の定着した都市を築きました。その豊かな環境を、現代人の私達も、陸奥湾を守る為の植樹活動から学んでもらいたいと思っていますので、ちょっとだけ時間を割いて「広葉樹の木を植えませんか」と訴えたいです。私達の活動場所は、平内町の「社会貢献の森」ですが、別名『陸奥湾の山と海をつなぐ植樹祭』と呼んでいます。



プランクトンとは、水中で浮かんだまま生活している小さな生き物です。

光合成をする植物性プランクトンと、その植物性プランクトンを食べて生きている動物性プランクトンがいます。このプランクトンが、魚たちにはとっても大切なエサの役割を果たしています。この植物性プランクトンは、広葉樹の森の腐葉土の中「フルボ酸」を含んだ水が、川を伝わって流れてくる途中、川で「鉄分」をスポンジのように吸収して、海に流れていきます。

その「フルボ酸鉄」が植物性プランクトンをつくります。

その植物性プランクトンを動物性プランクトンが食べます。

その動物性プランクトンを小魚や、ホタテが食べます。

その小魚を大きな魚が食べます。

その大きな魚を私達が食べます。

全国にラーメン屋がいっぱいあります。それぞれ、豚骨味、野菜味、魚介・昆布味などがあります。

鶏骨、牛骨、豚骨などの骨をじっくりと煮込み、丁寧にアクを取ることで、旨味が溶け込んだ極上のスープとなります。魚介類の旨味と風味はカツオ節、昆布、煮干し、カタクチイワシ、アゴ、アジなど豊富な種類があります。青森県で有名なのは、煮干味です。

動物系、魚介系は旨味が非常に強く、ラーメンのだしには必要不可欠ですが、ニオイやクセが強いのも特徴です。このニオイやクセを消すために使われているのが、野菜系のだしです。

動物系や魚介系のだしを煮込むときに、ショウガやにんにく、長ネギなどの香味野菜を入れて煮込むほか、自然な甘みを加えるためにたまねぎやリンゴをいれる店舗もあります。また最近では、トロトロになるまで煮込んだ野菜をベースにした、ベジタポ系のだしが女性を中心に人気を集めています。

皆さん、がんばりましょう。

